

【左京区】修学院離宮、駒井家住宅

自然との調和 宮内庁 離宮とヴォーリズ建築

定員：30名



京都の中心部より北東の山麓に位置する修学院離宮と駒井家住宅。

修学院離宮では、周囲の山麓や田畑などランドスケープを活かした「借景の修学院離宮」と呼ばれる空間を堪能し、駒井家住宅では、海外建築がいかにかに日本の風土や環境、和風建築と融合したのかがい知る、自然と建物・庭園が調和する世界に浸るコースです。

修学院離宮（上離宮）

行程

※行程は予告なしに変更することがあります

8:45（集合）	都ホテル京都八条（京都駅八条側）	=====貸切バス=====
10:00 - 11:30	修学院離宮 見学	=====貸切バス=====
11:40 - 12:40	駒井家住宅 見学	=====貸切バス=====
13:20（解散）	京都駅	

〈注意事項〉本コースは庭園を散策するため、ハイヒールは避け、歩きやすい靴でご参加ください。

修学院離宮：17世紀中頃、後水尾上皇によって造営されました。上・中・下の3つの庭園からなり、借景の手法を採り入れた庭園は、「桂離宮」と並び日本を代表する名園として知られています。敷地面積は54㎡におよび、各庭園の間には田畑が広がり、細い松並木が各庭園を結んでいます。

駒井家住宅：「日本のダーウィン」と称され遺伝学等に大きな功績を残した駒井卓博士(京都大学名誉教授)の私邸として、1927年ヴォーリズ建築事務所の設計により建てられました。外観は、スパニッシュ様式を基調としながらも、赤い和瓦を使い、内部は洋風住宅プランの一角に和室を加えるなど和洋折衷にし、周囲の環境とほどよく調和したものになっています。現在は(公財)日本ナショナルトラストによって維持管理されています。



修学院離宮 客殿



駒井家住宅